

三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・ バランス ファンド (安定成長型)

追加型投信／内外／資産複合／インデックス型

作成対象期間：2022年5月13日～2023年5月12日

第 22 期 決算日：2023年5月12日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、内外の債券・株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図るため各資産の指数を独自に合成した指数をベンチマークとし、当該ベンチマークと同程度の投資成果をあげることをめざして運用することを目的としております。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第22期末 (2023年5月12日)

基準価額	22,862円
純資産総額	13,322百万円
騰落率	+6.5%
分配金合計 ^(*)	0円

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9:00～17:00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

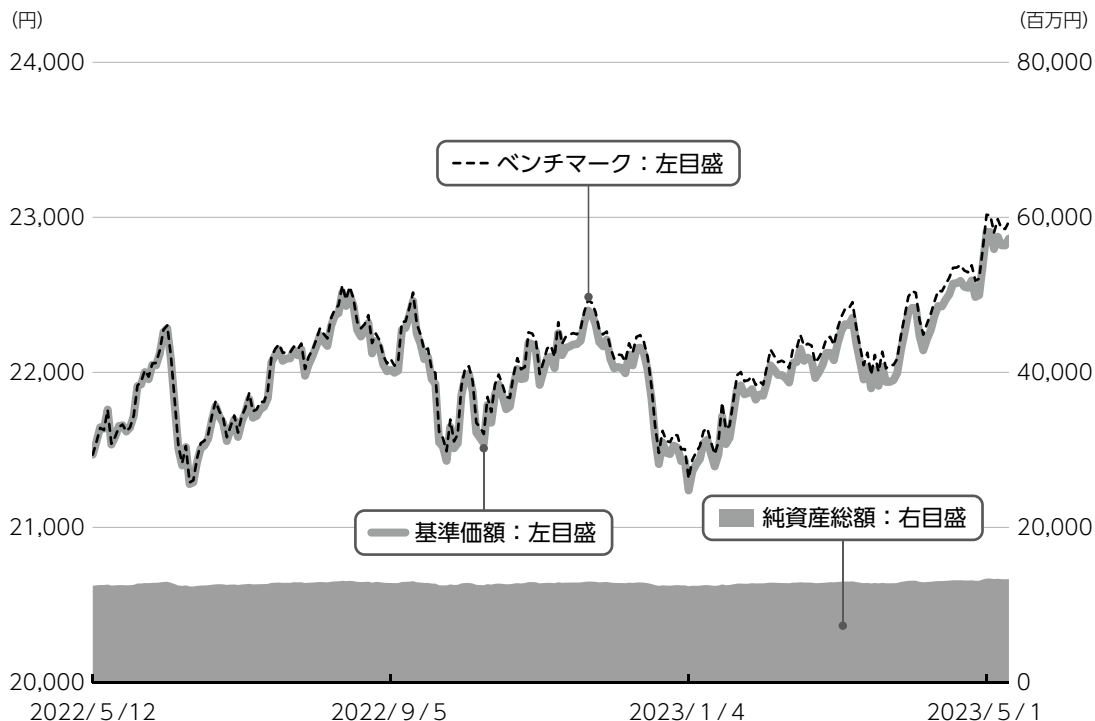
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第22期：2022年5月13日～2023年5月12日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第22期首	21,469円
-------	---------

第22期末	22,862円
-------	---------

既払分配金	0円
-------	----

騰落率	6.5%
-----	------

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ6.5%の上昇となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（7.0%）を0.5%下回りました。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

主に国内株式市況が上昇したことなどが、基準価額の上昇要因となりました。

組入ファンド	騰落率	組入比率（対純資産総額）
TOPIXマザーファンド	17.8%	30.2%
外国株式インデックスマザーファンド	12.2%	14.9%
日本債券インデックスマザーファンド	-0.8%	42.0%
外国債券インデックスマザーファンド	1.2%	10.0%

※ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標）は、合成インデックスです。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

※ベンチマークは、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

2022年5月13日～2023年5月12日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	80	0.363	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(39)	(0.176)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(29)	(0.132)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(12)	(0.055)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.001	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(0)	(0.000)	
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.000)	
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	0	0.002	(c) 有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(0)	(0.002)	
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	2	0.008	(d) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.004)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.004)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	82	0.374	

期中の平均基準価額は、21,998円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

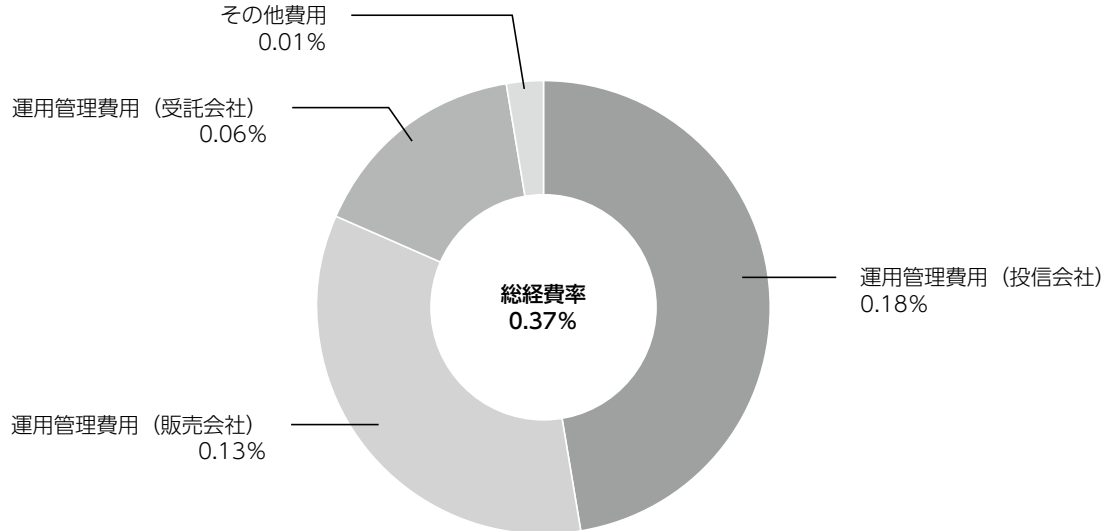
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.37%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

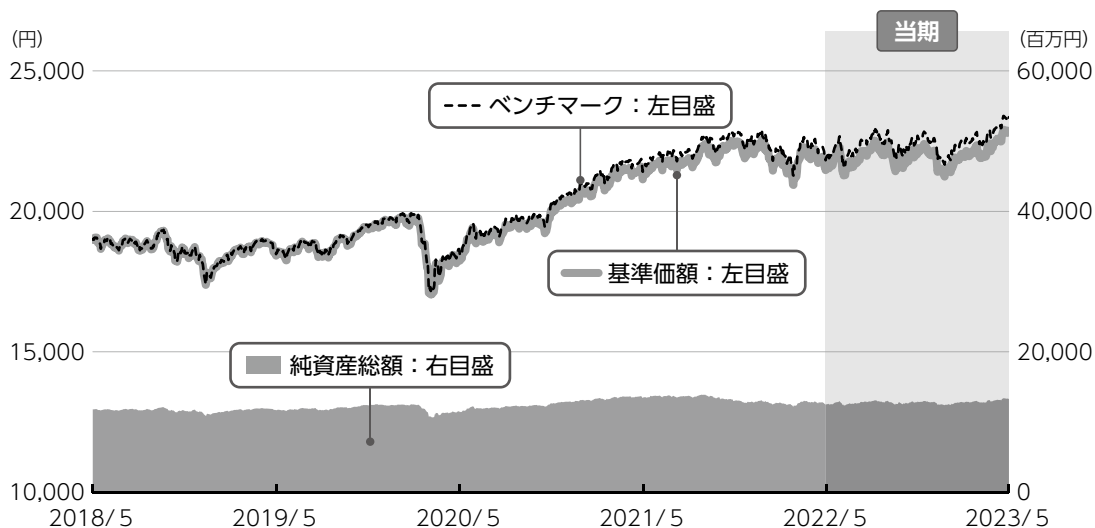
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2018年5月14日～2023年5月12日

最近5年間の基準価額等の推移について



※ベンチマークは、2018年5月14日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。
 ※海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

最近5年間の年間騰落率

	2018/5/14 期初	2019/5/13 決算日	2020/5/12 決算日	2021/5/12 決算日	2022/5/12 決算日	2023/5/12 決算日
基準価額 (円)	19,004	18,508	18,472	21,279	21,469	22,862
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	-2.6	-0.2	15.2	0.9	6.5
ベンチマーク騰落率 (%)	—	-2.3	0.5	15.5	1.2	7.0
純資産総額 (百万円)	11,804	11,718	11,531	13,491	12,463	13,322

ベンチマークは、合成インデックスです。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

投資環境について

▶ 国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

新型コロナウイルス対策の入国規制緩和によるインバウンド需要期待等から、国内株式市況は上昇しました。

▶ 外国株式市況

外国株式市況は上昇しました。

世界的なインフレへの警戒、米銀破綻による金融システム不安を受けて外国株式市況は期間中下落したものの、米国の利上げペース減速やインフレピークアウトへの期待、堅調な経済指標などを受けて上昇して期間を終えました。

▶ 国内債券市況

国内債券市況は下落しました。

国内債券市況は、期間の前半はインフレ率の高止まりを受けた欧米金利の上昇などから下落しました。2022年12月には日銀がイールドカーブコントロール（YCC）の修正を決定したことなどにより国内債券市況は下落しましたが、期間の終わりにかけては米欧金融不安などを背景に反発しました。期間を通じてみると国内債券市況は下落しました。

▶ 外国債券市況

先進国の債券市況は下落しました。

先進国の債券市況は、欧米中央銀行による利上げペースの減速期待等を背景とした金利低下により上昇する局面もありましたが、金融政策引き締め等を背景とした金利上昇により、期間の初めとの比較では下落しました。

▶ 為替市況

期間の初めに比べて米ドル、ユーロは対円で上昇しました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 三菱UF J <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (安定成長型)

内外の債券・株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図るため各資産の指数を独自に合成した指数をベンチマークとし、当該ベンチマークと同程度の投資成果をあげることがめざした運用を行いました。マザーファンドを通じて国内債券42%、国内株式30%、外国債券10%、外国株式15%および短期金融商品3%の比率で配分した基本ポートフォリオのもと分散投資を行い、個別資産毎におけるパッシブ運用を行いました。

▶ TOPIXマザーファンド

資産のほぼ全額を株式（先物を含む）に投資しました。

株式ポートフォリオはベンチマークである東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の個別銘柄構成比率に合わせて構築しました。

▶ 外国株式インデックスマザーファンド

ベンチマークであるMSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）に採用されている株式（先物・不動産投資信託証券（REIT）を含む）を主要投資対象とし、ベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行いました。

株式の国別比率、業種別比率などがベンチマークとほぼ同様になるようにマルチファクターモデルを用いてポートフォリオを構築しました。

（注）マルチファクターモデル
株式市場の構造（動向）を、複数の要因（業種・通貨・企業規模など）に分類し、高度な統計手法を用いて説明をするモデル

▶ 日本債券インデックスマザーファンド

資産のほぼ全額を債券（先物を含む）に投資し、高い公社債組入比率を維持しました。

ベンチマーク（NOMURA-BPI総合）の構成銘柄を種別や年限等の属性でグループに区切り、ベンチマークの各グループの比率とポートフォリオの同じグループの比率を極力近づけるように、ポートフォリオを構築しました*。

*一般的に、このような手法を層化抽出法といいます。

▶ 外国債券インデックスマザーファンド

日本を除く世界各国の公社債を主要投資対象とし、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行いました。

ベンチマークの動きに連動するべく、組入比率は高位に保ち、地域別配分や年限構成比がほぼ同様になるようにポートフォリオを構築しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

三菱UF J <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (安定成長型)

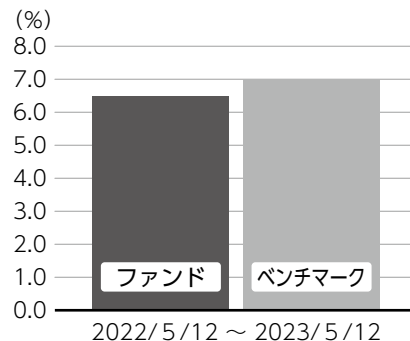
基準価額の騰落率は、6.5%の上昇となり、ベンチマークの7.0%の上昇を0.5%下回りました。

差異の内訳は以下の通りです。

(内訳)

TOPIXマザーファンド	△0.1%程度
外国株式インデックスマザーファンド	0.0%程度
日本債券インデックスマザーファンド	0.0%程度
外国債券インデックスマザーファンド	0.0%程度
その他 (信託報酬等)	△0.4%程度

基準価額 (ベビーファンド) とベンチマークの対比 (騰落率)



TOPIXマザーファンド

ベンチマークとの差異の主な要因は以下の通りです。

主なプラス要因：組入要因によるものです。

主なマイナス要因：その他の要因*によるものです。

*配当評価差異等が含まれます。

外国株式インデックスマザーファンド

ベンチマークとの差異の主な要因は以下の通りです。

主なプラス要因：その他の要因*によるものです。

*その他の要因には、ファンドとベンチマークで適用される配当税率の差異によるプラス要因などが含まれます。

主なマイナス要因：組入要因によるものです。

日本債券インデックスマザーファンド

ベンチマークとの差異の主な要因は以下の通りです。

主なプラス要因：ポートフォリオ要因によるものです。

主なマイナス要因：評価時価差異要因*によるものです。

*ファンドの基準価額とベンチマークで算出に用いる債券時価が異なるため生じる要因です。

▶ 外国債券インデックスマザーファンド

ベンチマークとの差異の主な要因は以下の通りです。

主なプラス要因：評価時価差異要因*によるものです。

※ファンドの基準価額とベンチマークで算出に用いる債券時価や為替レートが異なるため生じる要因です。

主なマイナス要因：取引要因によるものです。

▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第22期 2022年5月13日～2023年5月12日
当期分配金 (対基準価額比率)	- (-%)
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	14,231

(注) 対基準価額比率は当期分配金 (税込み) の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 三菱UF J <DC>インデックス・ライフ・ バランス ファンド (安定成長型)

資産配分方針は、従前通り基本ポートフォリオを維持します。また、各資産の組入比率は、期間を通じて同比率に準ずるよう調整を行います。

▶ TOP I Xマザーファンド

ベンチマークの動きに連動する投資成果をめざして運用を行います。

▶ 外国株式インデックスマザーファンド

ベンチマークの動きに連動する投資成果をめざして運用を行います。

▶ 日本債券インデックスマザーファンド

ベンチマークの動きに連動する投資成果をめざして運用を行います。

▶ 外国債券インデックスマザーファンド

ベンチマークの動きに連動する投資成果をめざして運用を行います。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

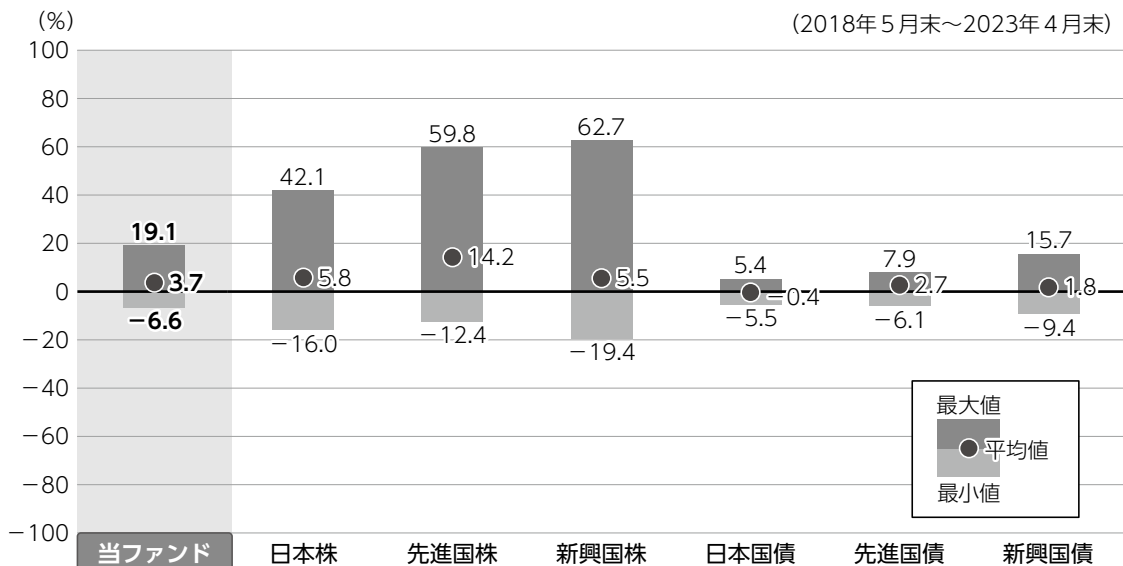
- ・三菱UFJ国際投信株式会社は、2023年10月1日より商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更します。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／インデックス型
信託期間	無期限 (2001年12月19日設定)
運用方針	主として、マザーファンドを通じて国内債券42%、国内株式30%、外国債券10%、外国株式15%および短期金融商品3%の比率で配分した基本ポートフォリオのもと分散投資を行い、個別資産毎におけるパッシブ運用を行います。当社が独自に指数化する合成インデックスをベンチマークとして、ベンチマークと同程度の投資成果をあげることをめざします。長期的な運用環境の動向等により、基本ポートフォリオを見直す場合があります。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。資産配分については、三菱UFJ信託銀行株式会社からの投資助言を受けます。
主要投資対象	<p>■当ファンド 日本債券インデックスマザーファンド受益証券、TOPIXマザーファンド受益証券、外国債券インデックスマザーファンド受益証券および外国株式インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資をすることがあります。</p> <p>■TOPIXマザーファンド 東京証券取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。</p> <p>■外国株式インデックスマザーファンド MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース) に採用されている株式を主要投資対象とします。</p> <p>■日本債券インデックスマザーファンド NOMURA-BPI 総合に採用されている公社債を主要投資対象とします。</p> <p>■外国債券インデックスマザーファンド FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース) に採用されている国債を主要投資対象とします。</p>
運用方法	内外の債券・株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図るため各資産の指数を独自に合成した指数をベンチマークとし、当該ベンチマークと同程度の投資成果をあげることをめざします。
分配方針	<p>経費等控除後の配当等収益および売買益 (評価益を含みます。) 等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <p>分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)</p>

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2018年5月から2023年4月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2023年5月12日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：4銘柄)

ファンド名	第22期末 2023年5月12日
日本債券インデックスマザーファンド	42.0%
TOPIXマザーファンド	30.2%
外国株式インデックスマザーファンド	14.9%
外国債券インデックスマザーファンド	10.0%

※比率は当ファンドの純資産総額に対する各マザーファンドの評価額の割合です。

※上記のうち、上位3ファンドについては、「組入上位ファンドの概要」を後掲しています。

純資産等

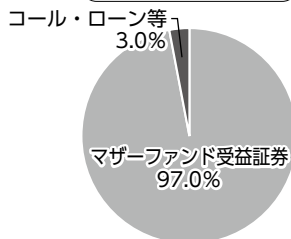
項目	第22期末 2023年5月12日
純資産総額 (円)	13,322,201,119
受益権口数 (口)	5,827,152,022
1万口当たり基準価額 (円)	22,862

※当期中において追加設定元本は535,153,684円

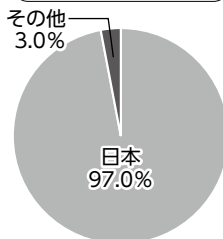
同解約元本は 513,380,150円です。

種別構成等

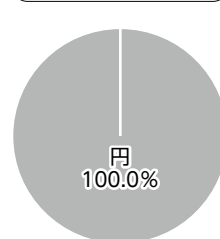
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

968374

2023年5月12日現在

組入上位ファンドの概要

日本債券インデックスマザーファンド

基準価額の推移

2022年5月12日～2023年5月12日



1万口当たりの費用明細

2022年5月13日～2023年5月12日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a) 売買委託手数料	0	0.000
(先物・オプション)	(0)	(0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は、12,993円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：863銘柄)

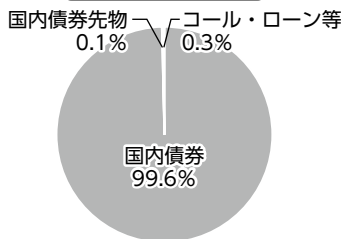
	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	第142回利付国債 (20年)	債券	日本	国債	1.5
2	第137回利付国債 (20年)	債券	日本	国債	1.3
3	第364回利付国債 (10年)	債券	日本	国債	1.1
4	第359回利付国債 (10年)	債券	日本	国債	1.0
5	第356回利付国債 (10年)	債券	日本	国債	1.0
6	第358回利付国債 (10年)	債券	日本	国債	0.9
7	第149回利付国債 (5年)	債券	日本	国債	0.9
8	第350回利付国債 (10年)	債券	日本	国債	0.9
9	第144回利付国債 (5年)	債券	日本	国債	0.9
10	第360回利付国債 (10年)	債券	日本	国債	0.9

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

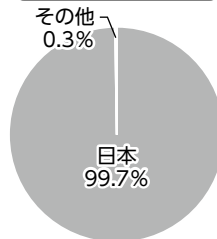
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

種別構成等

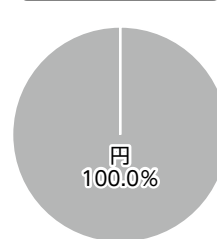
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等 (国内外) を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

968294

2023年3月27日現在

組入上位ファンドの概要

▶ TOPIXマザーファンド

基準価額の推移

2022年3月25日～2023年3月27日



1万口当たりの費用明細

2022年3月26日～2023年3月27日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a) 売買委託手数料	0	0.001
(株式)	(0)	(0.000)
(先物・オプション)	(0)	(0.001)
合計	0	0.001

期中の平均基準価額は、22,682円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：2,162銘柄)

	銘柄	種類	国・地域	業種／種別	比率(%)
1	トヨタ自動車	株式	日本	輸送用機器	3.5
2	ソニーグループ	株式	日本	電気機器	2.9
3	キーエンス	株式	日本	電気機器	2.2
4	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	日本	銀行業	1.8
5	日本電信電話	株式	日本	情報・通信業	1.8
6	第一三共	株式	日本	医薬品	1.5
7	武田薬品工業	株式	日本	医薬品	1.4
8	三井住友フィナンシャルグループ	株式	日本	銀行業	1.3
9	信越化学工業	株式	日本	化学	1.2
10	東京エレクトロン	株式	日本	電気機器	1.2

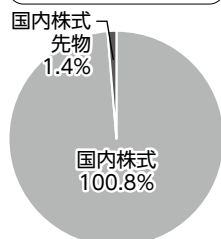
※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

※原則、国・地域については、法人登録地を表示していません。

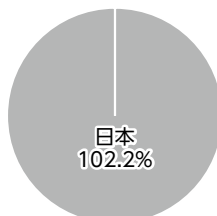
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

種別構成等

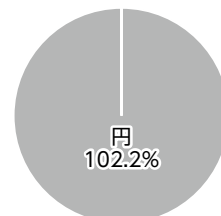
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類していません。

※原則、国・地域については、法人登録地を表示していません。

968364

2023年5月12日現在

組入上位ファンドの概要

▶ 外国株式インデックスマザーファンド

基準価額の推移

2022年5月12日～2023年5月12日



1万口当たりの費用明細

2022年5月13日～2023年5月12日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a)売買委託手数料	1	0.002
(株 式)	(0)	(0.001)
(投資信託証券)	(0)	(0.000)
(先物・オプション)	(1)	(0.002)
(b)有価証券取引税	7	0.014
(株 式)	(7)	(0.014)
(投資信託証券)	(0)	(0.000)
(c)その他費用	10	0.020
(保管費用)	(9)	(0.020)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	18	0.036

期中の平均基準価額は、46,707円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：1,272銘柄)

	銘柄	種類	国・地域	業種／種別	比率(%)
1	APPLE INC	株式	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.2
2	MICROSOFT CORP	株式	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.1
3	AMAZON.COM INC	株式	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	1.9
4	NVIDIA CORP	株式	アメリカ	半導体・半導体製造装置	1.3
5	ALPHABET INC-CL A	株式	アメリカ	メディア・娯楽	1.3
6	ALPHABET INC-CL C	株式	アメリカ	メディア・娯楽	1.2
7	META PLATFORMS INC-CLASS A	株式	アメリカ	メディア・娯楽	1.0
8	TESLA INC	株式	アメリカ	自動車・自動車部品	0.9
9	UNITEDHEALTH GROUP INC	株式	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	0.9
10	EXXON MOBIL CORP	株式	アメリカ	エネルギー	0.8

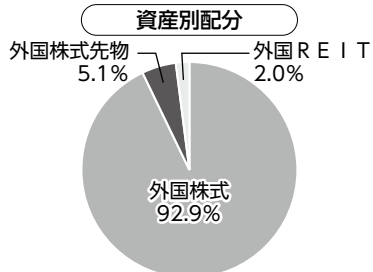
※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

※REITを含めて表示しています。

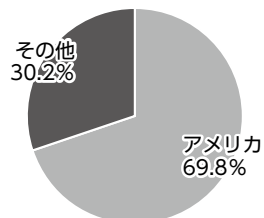
※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

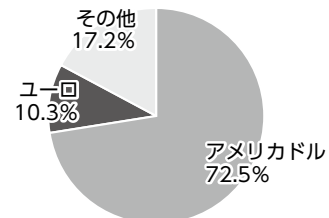
種別構成等



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ ファンドのベンチマークである『合成インデックス』について

当社が独自に指数化する合成インデックスとは、NOMURA-BPI 総合42%、東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) 30%、FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース) 10%、MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース) 15%、無担保コール翌日物レート (短資協会発表) の平均値3%を合成したものです。

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

● 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの数値及びTOPIXに係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

● MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)

MSCI コクサイ・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● NOMURA-BPI (国債)

NOMURA-BPI (国債) とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI (総合) のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

● FTSE世界国債インデックス (除く日本)

FTSE世界国債インデックス (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

● JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。